

本興寺だより

令和四年
七月
第三五号

「九思一言とて、九度思いて一度申す」

(宗祖 崇峻天皇御書)

梅雨もわずかに二週間で、雨もほとんど降らず明けました。今月は参議院選挙です。巷には「**わたくしは**：。」という連呼の音がこだまし、一層熱くなっています。今、急に「**わたくしは**・・・」と言え、**「あんたも立候補したの？」**と言われそうです。自分のことを普段から「**わたくし**」と言う人はそれほど少ないのです。自身のことを何と呼ぶでしょうか？ 私、ぼく、おれ、わし・・・相手のことは？あなた、おまえ、あんた、○○さん・・・いろいろあります。

自分のことは「**私(わたくし)**」と呼ぶのが一番良いということです。なぜなら「**わたくし**」の語尾には丁寧な言葉が続くからです。雑な言葉はこないのです。「**わたくし**は 銀行へ行つてまいります」と聞けば、上品で金持ちに見え、あの人は貯金しに行くのかな？と。「**おれ** 銀行へ行つてくる」と聞くと、そうは見えず、お金を下ろしに行くのかな？と思えたりします。日蓮聖人は、中国の孔子の言葉を引用し、九思一言の思いをもつて人と接する大切さを云われています。冒頭の文の「**九思一言**」とは、他人と会話をする時、九度思つて一度言葉を出すということです。

「会います」となります。人と話す時には、相手に敬いの心を持つこと、自分のことを話す時でも、何時でもこの尊敬語、謙譲語、丁寧語で話すことなのです。言葉が乱れば心も必ず乱れるのです。とにかく丁寧な言葉、尊敬する言葉を自分にも他人にも心がけることが大事なのです。

社内下部にも「さん付け」で呼び合う組織にはパワハラはないと言いつける社長もいます。

良き言葉は両方に安らかな気持ちを与えます。

日蓮聖人は「**わざわいは**口より出でて、身をよぶる。**さいわいは**心より出でて、我をかざる」とも云われています。

人間の感情には、実際に心の中で思う本音と、その場に合わせて自分の心を隠し相手に気遣いを込める建前があります。双方とも円滑な人間関係には必要な一面ですが、一方で建前の心を素直に受け入れられるように自分の本音の感情を近づけていく心の修練も必要だと云われます。

人は紙飛行機のように軽い気持ちで他人に飛ばした言葉でも、相手にはボーリングの玉に当たったように大きな衝撃を与えることもあります。

自分の吐いた一言で人生を狂わすこともあります。一言が相手を死に追いやることも、相手に大きな支えの力を与えることもあります。

全ては己の心の中に、人と共に助け合い幸せを求める心、何事にも感謝を先に感じる心を何時も忘れず育てることが大切だと云われています。そのためには悪

九度とは、①ものを見る時、その物事を明らかに見る。②ものを聞く時、うわべだけでなく本質を聞く。③温和な顔で人に接する。④所作・振る舞いは上品にする。⑤誠心誠意、人と話をする。⑥その人を敬う気持ち忘れぬ。⑦疑問が起きた時には、質問をして物事を明らかにする。⑧怒りの心が生じた時、自分に難が還ってくるという心構えを持つ。⑨人からものをもらう時、自身がもらっても良いものか、悪いものかを考える。この九つです。

私たち凡人には難しいかも知れませんが、この心を忘れてはいけなさと云われます。

人間は、日々、身(行動)・口(言葉)・意(心・思い)の三つの業(行為)により様々な体験をします。



意(心)の中の思いが言葉となって発し、行動に繋がります。心の思いが素直に言葉に出せず、また思うように行動できないことも多々あります。身口意の思いが一致せずバラ

バラであれば不安やストレスが増えること云われます。身口意は深く相互に関わっている故に、絶えず自分の行いを振り返り、言葉に気を付けて、心を見つめ直していくことが大切だと説かれます。

他人と交わる時、言葉のコミュニケーションが最も相手に与えるインパクトが大きいので、言葉を大切にしないといふ云われます。

例えば、「会う」という言葉は、尊敬語では「お会いになる」、謙譲語では「お目にかかる」、丁寧語では

いことは心の中でも、実際の行動でも絶対してはいけない、全て自分に還ってくるのだと。「天に唾を吐けば自分の顔に落ちてくる」ように。

人間は悪いと思うことが、人間関係の好き嫌いや損得で、その規範がゴムのようになんか伸び縮みします。単なる道徳的に悪事をするなどというだけでなく、悪事は自分の求めようとする幸せを心の中から壊す大きな力となるのです。

「悪」という字にはどういう意味が込められているか？悪は心の上に亜と書きます。亜の旧字は「亞」です。この字は、古代の陵墓玄室(お墓)です。今風に言えば、ドローンでお墓を上から撮影した姿です。



お墓は滅した肉体を葬り御霊を祭る本来は尊い所。しかし悪い心、悪い行いは荒れた墓のように、自分の命も知らず知らず縮めて滅していく行為であり、他人に對しては、恐れや恐怖の気持ちを抱かせる、罪深いことなのだといふ大切なのです。

人が一番よく耳にするのは自分の声です。ならば自分の言葉に責任を持つことが大切だと云われます。

現代はスマホで呟いたことが瞬時に多くの人に拡散します。便利な反面、大変怖いことでもあります。先の「九思一言」を心の中で弁えて人と話すことを心がけ、尊敬語、謙譲語、丁寧語に心をこめられる自分を培うことが、自分の幸せを引き寄せるのだと教えています。合掌 本興寺住職 中 谷 聰 秀